

# チップ材の燃料利用によるカラマツ林業の再生 ～地域経済を活性化する新たな産業の創出～



佐久チップ産業(株)の倉庫内に格納されたチップ（原料はカラマツの間伐材）

戦後造林された佐久地域のカラマツ林の資源量は充実しつつあります。また、2020年の国産材率50パーセントを目標に搬出間伐重視の施策が展開され、全国的に木材の生産量が増加しています。

一方で、建材（A材）や土木用材等（B材）は需要が堅調ですが、製紙用チップ材（C材）は、輸入チップ供給網の充実・紙需要の減少等により需要が低迷しています。C材の需要が低迷すると、所有者へ還元する金額へも悪影響が出ます。このため、C材の地域での需要開拓が必要です。

佐久地域の特性として①比較的低水分であるカラマツ材の産地②乾燥気候③製紙チップ工場が他地域より多いーなど、燃料用チップを製造する条件がそろっています。

このため佐久地域の関係者が官民一体となって、「化石燃料の代替としてカラマツチップ材を利用することで、林業の底上げを図る」という課題を設定し取り組みを行っています。

平成25年度は①乾燥チップ材製造試験では、夏伐採のカラマツは山土場で3か月養生すれば水分30パーセント以下となり優良な燃料チップ用材となる②チップボイラー導入推進活動では、平成26年度以降のチップボイラー導入をめざし、温泉施設など13施設を訪問し、うち4施設で導入診断を行うー等の活動を行いました。

平成26年度は、チップボイラー導入を進めつつ、乾燥チップの安定供給体制構築に取り組んでいます。